

## 6 本時の学習

### (1) 目標

図をもとに、2つの量の和や差にあたる大きさを考え、割合の問題を解く。

**数学的な考え方**

### (2) 展開

過程	時間	学習活動	◎主な発問 ○指示 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 評価	
導入	10	1 問題文を読み、題意を把握する。	○ 問題を読みます。	・ 問題文を提示し、説明を加えながら問題を読む。	
		<b>問題</b> もとのねだんが15000円のデジタルカメラA10%引きの代金と、もとのねだんが12000円のデジタルカメラBに消費税8%がついた代金とでは、どちらが安いでしょうか。			
		2 本時の課題とめあてを把握する。	◎ どうやって考えたらいいですか。 ・ 図に書いて考える。 ・ 別々にねだんを求める。	・ 関係図や線分図をかいて考えればわかりやすいことに気づかせる。 ・ めあてを決めさせる。	
<b>めあて</b> 図をかいてデジタルカメラのねだんをもとめよう。					
展開	30	3 デジタルカメラAの代金を求める。 ・関係図、線分図を書く。  ・式と答えを求める。	◎ まず、デジタルカメラAのもとの値段と代金の関係を図に表しましょう。  <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">もとのねだん</div> <span style="font-size: 2em; margin: 0 5px;">→</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">代金</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係図、線分図をかいた用紙をあらかじめ配っておき、それに必要事項を書き加えながら関係を考えさせる。</li> <li>図を全体で出し合い、確認した後、ねだんを考えさせる。</li> <li>10%と10%引きの違いを、図で表す際に押さえた上で考えさせる。</li> <li>考えを説明する際には、その数字が何を表しているのかはっきりさせながら説明させる。</li> <li>Bのカメラについても、同様に図を書いた上で考えさせるようにする。</li> </ul>	
		4 理由を明らかにしながら、考えを出し合う。 ・ペアで ・全体で	◎図をもとに式と答えを考えましょう。 ・ $15000 \times 0.1 = 1500$ $15000 - 1500 = 13500$ 13500円 ・ $1 - 0.1 = 0.9$ $15000 \times 0.9 = 13500$ 13500円 ○ 自分の考えを説明してください。		
まとめ	5	5 12000円の8%消費税つきのねだんを求める。	◎ 同じようにBのカメラの値段を図を書いて考えましょう。 ・ $12000 \times 0.8 = 960$ $12000 + 960 = 12960$ 12960円 ・ $1 + 0.08 = 1.08$ $12000 \times 1.08 = 12960$ 12960円	・ 子どもたちの言葉からまとめを考える。	
		5 本時のまとめと振り返りをする。	◎ まとめを考えましょう。		
<b>まとめ</b> 何%引きや消費税の問題も、図を書いて考えるとよい。					
<b>評価</b> <b>数学的な考え方</b> (ノート) B基準: 図をもとに、デジタルカメラのねだんを求めている。 A基準: 図をもとに、根拠を明らかにしながらデジタルカメラのねだんを求めている。					

